

平成30年度東住吉区区政会議
第2回子育て教育部会

- 1 開催日時 平成30年9月27日（木）午後7時00分～午後8時55分
- 2 開催場所 東住吉区役所 3階 302会議室
- 3 出席者の氏名

（委員）

榑 徳子、筒井 由美子、中津 功一郎、平田 睦、藤本 佳孝、松田 安弘、
翠 紀雄

（市会議員）

（東住吉区役所）

上田区長、山根副区長、齋藤政策推進課長、中原総務課長、
伊藤次世代育成担当課長、柴田子育て支援担当課長、玉木保健主幹、
金森生活支援担当課長

4 議題

- （1）開会
- （2）中野中学校への現地視察に関する報告について
- （3）白鷺中学校への現地視察に関する報告について
- （4）子育て応援ナビ意見交換会の報告について
- （5）子育て教育部会からの提案事項について
- （6）その他（今後の予定など）

○齋藤政策推進課長

皆さん、こんばんは。東住吉区役所政策推進課長の齋藤でございます。

ただいまより、平成30年度東住吉区区政会議第2回子育て教育部会を開会したいと思います。それでは進行につきましては、藤本部長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○藤本佳孝部長

こんばんは。本日はよろしくお願ひいたします。

では、次第に入る前に、会議の有効性について、欠席者の確認をいたします。本日は、

森川委員のみ欠席の御連絡をいただいておりますが、東住吉区区政会議開催要項第6条第3項、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項により、委員の定数の2分の1以上の出席がありますので、有効に開催されていることを報告させていただきます。

本日は2回目の部会ということで、次回の本会議に向けて、意見の集約まで行いたいと思います。本日もについても活発な意見交換を行いたいと考えておりますので、皆さん、御協力をお願いいたします。

では、議事に入る前に、会議の注意事項について、幾つか御説明させていただきます。

会議は、発言者の氏名と発言内容が会議録に残り、公表されることになっていることを御承知おきください。会議のルールとして、委員の皆さんが発言される際は、挙手していただいて発言したい意思を示していただき、私が指名したら最初にお名前を言っていただいて、御意見を言うということをお願いいたします。

委員以外の方は、部会長である私の指名がある場合を除いて発言しないでください。

それから、会議中の携帯電話をお切りいただくこと、傍聴における遵守事項として、傍聴者の方は、写真撮影や録画、録音は、区長の許可なくしないことになっておりますので、委員の皆様も、会議中はお控えいただきますようお願いいたします。

それでは、まず、事務局より資料の確認の後、議題に入ってまいります。

では、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

○齋藤政策推進課長

それでは、次第をご覧くださいまして、平成30年度東住吉区区政会議第2回子育て教育部会とありますけれども、その次第の裏をご覧くださいましたら、配付資料の一覧がございますので、それを見ながらお手元の資料を確認いただけたらと思います。

まず、委員名簿、それと、座席表です。

続きまして、資料1としまして、「第2回の子育て教育部会レジュメ」です。続きまして、資料2としまして、「子育て教育部会で現地視察（ヒアリング）について」です。それと、資料3、「白鷺中の元気アップについて」です。それと、資料4としまして、「子育て教育部会『子育て応援ナビの意見交換』について」です。それと最後に参考といたしまして、子育て応援ナビの経緯ということで、「タウンデザイン、なぜ？子育て応援ナビ？」と書かれた資料です。資料につきましては、以上でございますが、お手元にない方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上でございます。お願いします。

○藤本佳孝部会長

それでは、議題2に入る前に、資料1を用いまして、前回までの流れと今回の部会で決定する事項を確認いたします。

資料1の3枚目に記載されている必要な調査事項について、資料2の中野中学校への現地視察に関する報告については私から。資料3、白鷺中学校への現地視察に関する報告については、松田委員から。資料4、子育て応援ナビ意見交換会の報告については、中津委員から報告していただきます。

これらの報告を踏まえて、次第5の提案議題の確定に向けた議論に入りたいと思います。

それでは、資料1で、本日の流れを確認したいと思います。資料1をご覧ください。

第2回子育て教育部会というところで、まず、いつもやっていますが、最初にビジョンの認識共有ということで、東住吉区将来ビジョン「子どもが輝き、みんなが幸せなまち」、「子どもが輝く取り組みに、大人が関わることでみんなが幸せになる」、子育ては「親だけではなく、社会全体が関わるのが大事！」ですというところを確認しておきたいと思っています。

前のスクリーンにも資料が出ていますので、見やすい方を見ていただけたらと思います。

次のページになります。これまでの取り組みと、今後の流れということで、第1回区政会議が6月12日に行われて、提案されたテーマとして『地域コミュニティと学校の連携をどう作っていくか』をベースに話し合っております。

7月に第1回子育て教育部会ということで、モデルケースとなる学校を選定、現地視察、意見交換の実施を決定いたしました。その中で、現地視察と各テーマの意見交換を行っております。

そして、本日、第2回子育て教育部会ということで、提案内容の決定をしていただきます。これが10月の第2回区政会議の本会議に上げられます。

前回の部会で決定した項目で、モデルとなる地域を検討ということで、中野中学校が上がりました。区政会議子育て教育部会の議論の中で、地域コミュニティと学校の連携をどのように作っていくかが、部会で検討していく議題として提案されました。

元気アップの活動が、地域と学校をつなげるきっかけになるのではないかとということで、元気アップの取り組みの現状と課題を確認していくことが、第2回子育て教育部会開催までの調査事項として決定されました。

必要な調査事項として、中野中学校元気アップヒアリング、白鷺中学校元気アップヒアリング、子育て応援ナビ意見交換ということが挙げられました。

というところが、流れです。

ページをめくっていただくと、本会議提案内容というところで、（仮）と書かれています。本日は、これをもとに、また意見交換を行っていきたいと考えています。

それでは、資料2の説明をしていきたいと思います。

資料2については、私からお話をさせていただきます。

平成30年8月10日に、中野中学校でヒアリングを行いました。参加者が、私と榊委員、筒井委員、翠委員、平田委員。平田委員については、中野中学校元気アップ地域コーディネーターの立場としても御参加いただきました。

中野中学校からは、山本校長先生、区役所から齋藤課長、伊藤課長、池田係長に御参加いただきました。

概要としまして、区政会議の議論の中で、地域コミュニティと学校の連携をどのように作っていくかが、部会で検討していく議題として提案され、元気アップの活動が地域と学校をつなげるきっかけになるのではないかとということで、元気アップの取り組みの現状と課題を確認していくことが、第2回子育て教育部会開催までの調査事項として決定しました。

調査対象のモデルとして、校長先生も元気アップ活動などに力を入れており、学習面サポート、土曜授業など。取組が活発な校区だという意見から、中野中学校へ現地視察を行い、校長先生とコーディネーターを交えて意見交換を行いました。

次のページ、学校元気アップ事業ということで、全中学校区において、地域の方々の協力を得ながら、地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして、学校元気アップ地域本部を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上などの課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取り組みを行っています。学校ごとにやっている事業が違うということになります。

活動内容として、定期テスト前の放課後や夏休み等の学習会、読書活動や学校図書館の整備、閉館時間の拡大、緑化活動等の環境整備、部活動支援などということになります。

中野中学校ですが、元気アップの取り組みとして、定期テスト前の学習会を行っています。中間テストや期末テスト前の6日間、放課後にテスト前学習会として、また夏休み期間には、宿題やり切り隊として、自分の学習教材や宿題を使って自学自習、わからないところや疑問点を学習支援ボランティアが指導しています。

それから、二つ目が、放課後自習室。給食のある日は毎日、放課後自習室を運営。学びサポーター、教育活動サポーターが、交代で図書館に常駐し、放課後に自習している生徒たちの質問に対応しています。

それから、三つ目が、ENJOY!「英活」。中野中学校の子どもたちが、英語を活かし、将来夢を持って世界に羽ばたくきっかけづくりに取り組むということで、スカイプを使って外国の子どもと話をしたり、ミシガン大学の学長と一緒に勉強を実施しています。毎月2回、土曜の午後に活動されています。

続きまして、ヒアリング、各取り組みの工夫点です。放課後学習支援については、定期テスト前学習会ということで、看板設置で、「見える化」をしています。日々は放課後自習室、表現を「学習」よりは緩やかに表現していますと。子どもたちが通いやすいように、学習というよりは、自習室というネーミングのほうが入りやすいということで、そういうネーミングにしているそうです。

部活を辞めてしまった生徒たちが、帰宅後に来る「居場所」になっているということです。部活を辞めてしまったとか、なかなかクラスになじめない生徒たちが、ここでは割と自由に、学習したり、友達と話をしたり、そんな場になっていますということでした。

図書室の開放、本を読むのではなく、話す場として「居場所」になっていますということです。これも、やっぱり子どもたちが「居場所」として使っているということです。

ENJOY!英活では、ハロウィン、クリスマスなど、イベントも開催。居場所のない子ども来てくれて、英語を学ぶことだけではなく、友達を作って巣立っていくということですね。

割と、友達となじめない子たちも、ここで英語を学ぶ中で、自立心が芽生え、割と友達たちと活発に話ができるようになったということもあるようです。

それから、中学校のニーズとして、英語力の向上があります。単語を習得する学習習慣が必要で、単語カードを英活で購入し、生徒に渡しているということです。学力向上にも役立っているということです。

次のページです。ヒアリングと意見交換で上がった課題等ということで、元気アップ（学校・PTAのお助け隊）の取り組みの認知度が低いと。もう少し見える化が必要ではないかと。発信の仕方も含めて、いろいろ考えたほうがいいのではないかとということです。

それから、地域コーディネーターの負担軽減や分担化、次の担い手の育成、やはり、なかなか地域コーディネーターの負担が重くて、次の担い手が育たないということに課題を

感じているようです。

学びサポーター・ボランティアの獲得にかかる課題、予算・周知・採用システム、これも、今かかわっている方々の個人的なつながりが、重立った力となって、次のボランティアを集めたりということになっているようなので、システムとして何か作ったほうがいいのではないかというお話が出ました。

地域実情に応じた学校教員と地域の連携のあり方を模索、中野中学と白鷺中学でも異なるということです。先生方の意識や認識なども、各学校によって違いがあるようですし、校長先生の思いもそれぞれあるようなので、そこはうまく話をしながら模索していけたらいいなということです。

それから、地域コーディネーター、つなぎ役として貴重な人材で働きを知ってもらう場が必要。私もそうですけれども、PTAであっても、なかなか学校にかかわっていない方々というのは、どんな取り組みがされているとか、地域コーディネーターそのものを、まず知らないとかということがありますので、もっと知ってもらう場が必要ではないかということです。

取り組み、課題、連携の見える化、既に会合は年2回、定例化。これは、コーディネーター同士の会合であったと思います。

それから、その下、区ホームページでリンク先集を発信し、お互いに知り、取り入れられることを発見できればということです。学校校長・教員との連携の深化・継続性の確保も必要。

それから、元気アップとはぐくみネットの課題や取り組み方向の「見える化」「共有化」、「小中セットでの元気アップ」構築、小・中の学校間連携会議は既に開催ということですが、はぐくみネットと元気アップが、なかなかリンクした動きにはなっていないというのが課題として見えるので、子どもたちが一貫して成長していく過程を見守るということでは、小学校から中学校、9年間を見れるような事業になっていけばいいのかなと感じました。

課題等の解決の視点ということで、学校の会議増・教員負担増、生徒数減・学級数減で教員数も減、子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズに合った適切な教育的支援をということで、これは学校教員も子どもが減ってきて、学級数が減って、先生の数も当然その中で減っていくという中で、先生の負担というのは増えているということです。

学校の会議の数は減ることはないので、一人一人の先生にかかる負担は増えているので、

その辺も考えてもらいたいということでした。

子ども一人一人の教育的ニーズに合った適切な教育的支援を、と書いていますけれども、そういうことも含めて考えていかなければならないのではないかとということです。

会議の重複整理やIT活用による効率化も進めつつも、教員の力だけでない学力保障サポートが求められている。また、学力向上だけでなく、人としての成長支援の視点も必要ではないかとということです。

「元気アップ」「はぐくみネット」のような学校を支援する取り組みの重要性が増大しています。地域が「生徒達が学習できる土壌づくり」として、学校のサポートを行える仕組みづくりが重要。個人の力量だけに頼らないものにしていく仕組みづくりも必要ではないかとということです。

先ほども申しましたように、先生たちの負担も増えており、学校だけではできないことというのがたくさんあると思いますので、そういう中で、地域が生徒たちの学習ができる土壌を作っていくというイメージを作ればなと感じました。

あと、個人の力量だけに頼らないように、何か仕組みは作っていくべきなのかなと感じました。

その下、提案と書かれていますけれども、地域の見方ですが、地域と学校の連携ということで、じゃあ地域って何だろうと考えたときに、行政機関であったり、町会であったり、また企業であったり商店街という、会社、商店だったり、ボランティアを中心とした団体であったり、というように広く地域資源を活かして、地域に根差した青少年育成に貢献できないかということです。

今、割とPTAが中心になり、事業にかかわって、学習支援というようなイメージではありますけど、もう少し大きなイメージで、人としての成長を支援する仕組みができればいいのではないかと感じます。

それから、学校としては、教職員、生徒、PTA、卒業生、小学校、教育委員会などと、課題の共有と協力関係の強化をもう少し進めたほうがいいのではないかと感じました。

というところが、資料2の説明です。

それでは、続きまして、資料3について、松田委員から報告をお願いいたします。よろしく申し上げます。

○松田委員

皆さん、こんばんは。

白鷺中元気アップについて、元気アップコーディネーターの永田吉隆さんと首藤美幸さんのお二人にお聞きしました。同席として、はぐくみネットのながたさとしさんもいらっしやったのですけれども、中心としてはコーディネーターのお二人にお聞きしております。

元気アップに係る活動について、どういう活動がございますかということで、放課後学習会・図書室解放・校内緑化事業・漢字検定主催・茶道講習会・地域交流会と挙げられておりました。

地域交流会は、地域の方とお餅つき、それから、地域の方に食事を食べていただいて、交流。それから地域の方々のクラブ体験会、クラブ活動の発表と大会の報告会、それから地域の方々とグラウンドゴルフ体験、そういった活動で地域との交流を行ってこられています。文化祭での元気アップ事業紹介、ポスター作成及び掲示なども行われています。

それとは別に、元気アップ隊という、中学生のボランティア活動のグループを作られて活動しているようです。ビオトープの整備、テーブル・ベンチの改修、グッピーの世話などです。それから、育和小学校校庭サマーキャンプに、中学生キャンプリーダーを参加させていると。それから、育和踊りでの河内音頭踊り参加と、育和・今川両地域での模擬店参加、教職員の皆さんと一緒に模擬店を運営されています。それから、青少年指導員主催のナイトウォークで炊き出し体験、炊き出し体験は、また後ほど説明しますけれども、防災活動と合わせて炊き出しを行われています。

中学校のニーズとの、現時点での整合性についてということで、初めは緑化・学力・部活動支援の3本柱で始めようとされていました。しかし部活動の活発な白鷺中学のため、部活動支援は除外し、緑化・図書室解放・放課後学習・地域交流へと展開されています。

緑化は、三、四名の緑化ボランティアで、校内を彩っています。回覧板と町内掲示板などで募集されています。

図書室開放、7時間授業などで放課後の開放時間が少し短いというところが気になるというところでした。そして、図書ボランティアが、今のところ1名です。

裏面に行きまして、放課後学習、事業開始当初は七、八名のボランティアで運営していましたが、現在は1名。図書室で行い、図書室開放と連携しているのですけれども、今年から、学習塾などでこの運営や、クラブ単位での学習会などがありまして、利用も少なくなっているということです。

地域交流は、キャンプリーダーでの小学生との交流、盆踊りでの踊り参加や模擬店参加、地域交流会で地域の方と一緒に餅つき、また活動発表や大会成績発表などを行っていま

す。

教職員とのかかわり、協力関係が良好なので、活動できていると感じています、というコーディネーターお二方の意見でした。

5年前から、土曜日授業（年3回）で、地域防災について学ぶので、防災の視点から地域との交流を進めています。1年生は、地図上での地域防災の考察、災害図表作成など。2年生は、AEDや可搬式ポンプでの吸放水訓練、負傷者搬送訓練など。3年生は、まち歩きをする中で、災害弱者の避難誘導の難しさをアイマスクや車いす体験で学ぶという活動をされています。

二、三年生の防災授業には、育和・今川両地域から防災リーダーの方を中心に60名ほどの地域の方が参加されています。

また、防災グループの中学生たちは、青少年指導員主催のナイトウォークで炊き出しを体験し、ナイトウォークの生徒が帰ってくるまで、体育館での避難所体験などを行っています。

取り組みの成果について、育和小学校校庭サマーキャンプでのキャンプリーダー育成に、青少年指導員がレクリエーション講習（野外活動協会講師派遣）を体育館で開催したり、お餅つき大会に地域の方（町会長、女性部長、青指、子ども会）が参加し交流。また、緑化ボランティアなど、中学生の保護者以外の地域の方が多く訪れるようになりました。

中学生も、育和小サマーキャンプで小学生とのふれあいができますし、育和踊りで地域の方々と一緒に河内音頭を踊り、育和・今川の両盆踊りでの模擬店体験、防災授業で地域防災リーダーとまち歩きなど、学校外でも地域の方との交流ができるようになっています。

はぐくみとの連携については、特にないということで、一度、漢字検定で今川はぐくみが生徒募集して漢字検定を開催したのみとなっているそうです。

活動の担い手、各事業でPTAや青少年指導員、子ども会育成会の協力を得ています。また、教職員の理解協力が大きいと感じているそうです。

他地域との情報交換については、区内の元気アップは、先ほどありましたように、年2回情報交換会が開催されて交流している。また大阪市規模で実践報告会も開催されている。

中学生の人数規模により学校ごとに取り組める内容が違い、元気アップコーディネーターが地域や学校とかかわりのある人か、そうでなく他地域の人かで、活動の受け入れ方が変わってきています。また、学校長の意識によっても、運営指針が異なっているようです。

課題、ボランティアの確保が難しい、集めにくいということをおっしゃっていました。また、予算が少なく、運営が無償ボランティア頼みになっているところも苦しいということです。

それから、大学生ボランティアとの連携ができていないので、学習ボランティアなどをしていただけたらありがたいなという話もありました。

以上、白鷺中学校の元気アップコーディネーターにお聞きしました内容です。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございました。

資料の後ろに写真等が載っていますので、また目を通しておいてください。

それでは、続きまして、資料4について、中津委員の報告をお願いいたします。

○中津委員

こんばんは、中津です。

子育て教育部会、子育て応援ナビの意見交換について、お伝えさせていただきます。

参加者は、区政会議委員が、藤本部会長、榊委員、筒井委員、松田委員と私で、区役所からは、齋藤課長、山本課長代理、鈴木係長、池田係長で、意見交換をさせていただきました。

この意見交換をした理由は、子育て部会の際に、子育て応援ナビというものがあるが、情報の検索性という部分等に関して、改善可能な課題があるのではないかとというのが、議題の一つになったところからです。

部会での議論に上がった課題、提案について、子育て応援ナビを立ち上げた経緯を共有した上で、実際にサイトを確認しながら、皆さんで情報の検索、操作体験し、具体的に改善可能な点、それから周知方法等についての意見交換を実施しました。

ページをめくっていただいて、まず、経過ということで、子育て応援ナビがなぜできたのかという話を、皆さんと共有しました。まず、平成27年4月に、東住吉タウンデザインアドバイザー会議というものがあまして、そこで区民とのコミュニケーションツール、区民と区民であったり、区民と組織であったり、区民と行政とか、そういうコミュニケーションツールということで考えていきました。

そして、なぜ子育て層向けなのかというような話もしました。多くの区民は、区役所にかかわる用事がなければ、来庁もしないと。

取り組みに興味も持っていないというのが現状ではないかと。区が何をやっているのか、

何をしてくれるのか、知らない、気づかない、といった区民の方は大半ではないのかなど。

その際に、子育てに入るタイミングというのは、区役所と初めて接触するタイミングになりますので、そのときに、東住吉区というのが、こういうことをやってくれているのだと、区って、いろんなことを、すごく助けてくれるなあという形で、区の活動を知ってもらえるタイミングになりますので、そこをまずは、最初のコミュニケーションツールとしてやろうというのが、最初です。

従来のホームページでは、探したい情報がどうしてもどこにあるのかわかりませんでした。各担当でホームページを作成するために、つながりみたいなものが余りなかったと。また、行政情報だけではさらにおもしろくないと。やっぱり子どもを持つ親としては、いろんな情報を知りたいというときに、行政情報だけではおもしろくないので、東住吉区の行政情報以外の、子どもにかかわる情報を、わくわくボックスとして設置していこうというのが、最初の入りです。

それから、平成28年4月に、「区民との協働」の視点を重要視し、行政情報以外に「わくわくボックス」として、子育て層の視点から必要とされた情報を横断的に取りまとめ、「東住吉区子育て応援ナビ」を開始しました。

そして、平成30年3月に、平成29年の子育て部会のアイデアを踏まえて、子ナビの改修を実施しております。改修内容は、新着情報がわかるツイッター情報枠をトップ画面に導入したり、子どもが参加しやすいように、イベントカレンダーというのをトップ画面に作成したというのが、現在の状態です。

そして、意見交換では、あまり知られていないというところが大きかったので、周知というところについて、意見交換を実施しました。健診時、1歳6カ月児の健康診査とか、転入パックに、配付していくとか、あとは、母子手帳を交付する際に、一緒に渡したらどうかとか、お母さん方に渡せるタイミングのときに、しっかり渡して行って、周知しようという意見も出てきました。

また、「子育てにうれしいお店情報」についても、かなりの数が、子育てにうれしいお店として載ってはいるのですけれども、あまり知られてないというのもあります。いろんな人たちが知っていくために、情報募集中などの文言を入れてはどうかという話にもなっております。

サイト自体のデザインについて、新着情報に関しては、ツイッターの更新により新着を知らせてはいるのですけれども、見ていくというところで、デザイン中に組み込むかとい

う話が出たり、あとは、子ナビを毎日楽しんで見ている人よりは、必要な情報を探しに来る人のほうがもしかしたら多いのかもしれないなど。そうしたら、新着情報というのは、ツイッターなどに任せてしまって、もう少し辞書的に使ってもらえるような、逆に検索しやすいようなデザインとか、中身の構築を考えていく。そして、そういう活用をしているユーザーの声をしっかり聞いて、どういうタイミングで使っているのかなどの検証も必要だと。

あと、アクセス数の検証もしっかりしていく。立ち上げてもう2年、3年になり、ある程度定着していると思いますので、アクセス数についても検証が必要かなと。

あと、検索ボックスやメニュータブの変更などもあるのですが、予算的に可能か、またそのニーズがあるのかなどの議論も行われました。

少しそれとずれて、子育て層以外の人というのは、基本的に興味がないので、話を聞いても、見る機会というのがなかなか少ないかなと思います。見てもらっても、覚えてもらえないとか、実際見てもらうこともない、名前だけ知ってもということなので、例えば子育て掛ける〇〇のように、子育て層に対して、企業とか社会全体が、仕掛けをできるような、このお店情報の中にもあるのすけれども、子育て層向けに、自分たちのお店の新しいビジネスモデル、そういったことも、これからしていけるんじゃないかと。

そういうふうに、子育て掛ける〇〇のような感じで、子育て層以外の人たちも巻き込んで、一般の人たちに知ってもらえるような仕掛けづくりが、今後必要ではないかという話になりました。

以上です。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございました。

それでは、今までのところで、御意見なり御質問ある方はお願いしたいのですが、どなたかありますか。

お願いします。

○中津委員

白鷺中学のところで、意見というか活動報告ですが、今、僕が所属している大阪城南女子短期大学で、今年の夏ぐらいから始めたのですが、家庭科部の中学生がその本格的な料理のキッチンで、実際に料理をしてみる活動とか、あとは、これから先、中学生と一緒に何かメニューをつくっていかうとか、そういう活動をしています。

今年度、もう一つ予定しているのが、先ほど図書館のボランティアが少ないという話がありました。うちの大学には図書館司書エリアがありますので、図書館司書の学生が、中学校の図書館に行って、放課後、ちょっとした活動、お姉さんたちが来るよみたいな形で、図書館というのを、少しサポートしていけないかと。まだしっかりとした日程や今後どうしていくかというのも決まてはいないですけど、そういう話が出ております。

最初、校長先生から、学習ボランティアの方をお願いされたんですけど、やはり学習ボランティアというのが、大学に来るのも、有料のボランティアが多くて、なかなか募集しても人が集まらない。

そんなときに、例えば図書館司書エリアの学生であれば、自分の経験になる、自分が勉強しているものを、実際にその場所でやってみよう、実際の図書館の場所でやってみよう、ちょうど図書館司書のエリアの学生たちは、もともとは中学校の図書館に憧れて来た学生も結構多いので、そういうところで、自分自身が勉強していることを、いろいろやってみようとかということで、調理のエリアの学生も、自分が調理を勉強しているから、じゃあ中学生に教える、ということをやってみようかということなので、単純に集めていこうとすると、やはりお金の面などもあったりするんですけど、例えば大学生の場合は、勉強しているものを活かしていこうみたいな形をすると、学生の中でも、手を挙げる学生が増えたりもしますので、お金はなかなか難しいところがあるかなと思いますので、そういうやり方も一つかなということで、今、チャレンジしているところです。また、実際に進み出したら、報告させていただきたいと思います。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。

そうですね、先ほども少し話に出ていましたけど、地域資源をどう活かすかというところが、今、城南短大のお話ですけど、恐らく他の企業でも、自社のメリットになることがあれば、もっとかかわりができるというのは、たくさんあるのだろうと思います。

もっとそういう視点で、この元気アップの事業そのものを見直してみるのも一つかなと感じました。

そのほか、何かございますか。はい、お願いします。

○榊委員

子育て応援ナビの意見交換に出させていただいて生じた疑問ですが、こういうふうな情報を載せていただくのは、区役所の方にさせていただいているということでしょうか。

小児科とか歯科とかと書いてありますけど、例えば小さい商店で、子どもに対して本当にいいことをやっておられるなと思うようなところでも、実際にここまでやるだけの力量は、時間的にも、能力的にも無理だと思うので、どなたがやっていただいているのかなというところを教えていただきたいと思います。

○藤本佳孝部会長

はい、中津委員、お願いします。

○中津委員

今現在は、ボランティアの「なでしこライター」の方が、実際にお店に取材に行って、お店の人のお話を聞いて、まとめてくれています。子育てにうれしいお店情報については、そういう形で書いてもらっています。

わくわくボックスに関しては、先ほどもお話の中にもありましたけど、企業やお店側の人のメリットみたいなものを出していかないと、これだけのために文章を書くというのは、なかなか大変かなと思います。実際お店の方も、やっぱり取材に来てくれているから、載せているというところもあるかなと思います。

最初のうちは、こうやって取材して載せていくけど、だんだん、子育て層に向けて発信できる広告ツールになり、自分たちも載せてくれみたいな、そういうものがどんどん増えてくるのが理想だなという話はしていました。

だから、労力をかけて書くことによって、子育て層が本当に自分のお店に来るとなると、もっと入ってくるのかなとは思っているのですが、まだ周知できてない部分もあったりするから、そこまではいっていないのかなと。

だから、今現在も、ボランティアの方が毎回、取材に行って、それをまとめて、ブログに載せてくれているというのが現状です。

○筒井委員

今、なでしこの報道局、なでしこライターのお話が出ましたけれど、数年前からなでしこの新聞に、スペースをとって、区民目線でいろいろ書いていこうということで、なでしこライター、私も入っているのですが、何人かいます。

メンバーの中で、あそこの写真屋さん、上手に撮ってくれるよとか、あそこのお店に行ったら絵本があるよとかいうのを、なでしこライター同士の情報でお店を紹介していて、だんだんと増えてきていて、かなりのお店を載せています。

ただ、以前はやっていただけで、今はもうお店は閉じてしまったというところもあるの

で、情報を更新していかないといけないという難しさもあります。

それから、現在、北の端のほうと南の端のほうで紹介しているお店が少ないので、もっといろんな方に御紹介いただけないかという話も、今、しているところです。

以上です。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。

そうですね、意見交換の中でも、子ナビの中で、情報を募集、集められるような仕組みがあったらどうだろうという話も出ていましたので、確かに今、ボランティアによるところが多いため、なかなか周知ができていないという部分はあるようです。

ありがとうございました。

それでは、本日も前回と同様、意見交換をこれから行います。今から約20分程度、席を移動して、4名程度に分かれていただいて、チームとして話し合ってください。

その後、チームの代表の方に、話し合った内容を発表していただき、その後、委員同士でまた意見交換を行います。議論していただく内容は、地域コミュニティと学校の連携をどう作っていくかについて、先ほどの中野中学校や白鷺中学校の現地視察を踏まえて、意見交換をいただければと思っています。

資料1の4ページに本会議での提案を、仮という形で記載しております。議論によって修正や加筆または具体的にどのように動いていけば、提案の内容を実現できるかを念頭に置いて意見交換ができればと思います。

前回同様、活発な意見交換をお願いいたします。なお、今から話し合ってくださいお時間は、部会を一時休会とし、議事録をストップさせていただきます。皆さんの状況を見て、時間を延ばすかもしれませんが、私が再開しますと発言してから、部会の一時休会が解け、再開する形になります。

それでは、今から部会を一時休会といたします。

机の上に置いてあります座席表に班分けがされていますので、あちらのほうへ席を移動いただいて、お話をいただくということになります。

内容ですけども、今スクリーンに出していただいていますけども、本会議提案内容、仮ということで、地域と学校の課題について、話し合ってくださいと思っております。中身、多少ずれてもと思っています。制限をかけずに、忌憚のない御意見をいただければなどと思っていますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、移動よろしく申し上げます。

(休憩 19:50)

(再開 20:14)

○藤本佳孝部会長

それでは、今から部会を再開します。

今からの発言は、議事録に残りますので、御留意ください。

それでは、各チームの代表の方、話し合っていたいただいた内容を発表いただけますでしょうか。両チームが発表後、質問や意見交換タイムを設けておりますので、ほかのチームが発表しているときも、どのような質問をしよう、どのような意見を言おうということを考えながらお聞きください。よろしくお願いたします。

それでは、発表をお願いします。

○翠委員

失礼します。私どもの班では、主に元気アップ事業につきまして、うまく進めるためには今後どうしていったらいいのか、これを何かの形にして提案というところへ持っていけないかということで、お話をさせていただきましたが、まだ最終的な提案というところのまとめまでは至っておりません。

まず、今日の白鷺中学と中野中学の現状、ヒアリング内容をお聞きしました中で、現時点におけるボランティアへの負担、それから後継者の養成、あるいは発掘に際して、非常に無理がかかっていると。元気アップ事業を続ける中で、逆に現職の教職員の皆さんの負担が増えてしまっているのじゃないかということもありまして、元気アップ事業の立ち上げ当時のように、できたら専門職、その中心となられる方を、今後予算をつけて置いていただけないかという意見が出ました。

ただ、予算づけということになってきますと、今よりレベルアップをこのように図れるんだという、何か目標みたいなもの、計画性を持った中でそういう予算づけの話にもつなげていけたら、いいのかなという内容です。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。それでは、もう一つの班は、どなたから。

○中津委員

我々のほうでは、まず元気アップのお話をさせていただきました。元気アップの活動とか、

そういったものをする人、同じような話ですけども、ボランティアの継続、なかなか無理があるとか、それで、大阪城南女子短大の話も出ていまして、なぜそれが成立していったのかという部分で言うと、ウィンウィンの関係があるんだよと。

中学生は実際に自分の学校まで来てくれる。それで、大学生たちは料理というのを勉強していて、それを教えるという機会になる。人に教えることによって自分たちも上達する。中学生は、現場の調理場を体験できる。という形で、両方にウィンウィンの関係が成立したからだ。

例えば、提案内容（仮）①の、地域、行政機関、町会とか、そういう資源を活かす部分でいったら、やっぱり普通のボランティアというのは、無償では集まらないんですけど、地域資源を活かすというときに、その地域資源の部分に利益がないと、学生も無償といったときに、その無償の何が自分に役にたつんやというのがないと、なかなか成立しなくなるので、そういう部分で、行政機関、町会、企業、商店街、団体、この人たちの利益って何だろうというのを度外視して、何かやろう何かやろうと言っても、なかなか難しいので、そういうのをしっかり調べていくということも必要じゃないかなという話も出ました。

あと、もう一つが、元気アップの周知のところで、やっぱり人に知ってもらおうとしたときに、先程の話とかでは、ナイトウォークとか、そういうのがあったんですけど、ナイトウォークという言葉だけでは、いろんな人たちがナイトウォークしたんだ、というだけだったりするので、何をしたかじゃなくて、そこでどういうことが行われたかという物語みたいなストーリーをしっかりと出して行って、フェイスブックなどでいろんなことを、活動として上げて、今、中学校とのつながりがなかったりもするみたいなので、そういうのももっとつなげて行って、中学校のところからもそういう活動が見れると。そういうものを知ってもらえるような、作り方、どういうふうに出すかは、まだですけども、そういう見せ方の工夫が必要ではないかという話になりました。

ということで、まだ課題というところまでまとまってはないのですけれども。

以上です。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございました。

それでは、今出てきた話ですが、ホワイトボードにまとめていただいているのですけれども、2班とも、時間的にも問題があったのですけれども、元気アップ事業についてのことが中心ということで、白鷺中学校と中野中学校の現状を見据えたところで、ボランティ

アの負担、継続であったりとか、募集、ボランティアを集めることに非常に課題があるのではないかとということと、事業の仕組みとして、3年であったり5年であったり進めていって、その後、地域に丸投げしているということで、それでは事業が継続しにくいのではないかとということ、もう少し専門職を置くなり予算をつけてみたらどうだろうということですね。

予算をつける上では、今よりもレベルアップを図るために、今の事業を続けるための予算ではなく、今の事業を発展させるための予算をつけることが必要ではないかとということですね。

それと、城南短大の取り組みの例を見て、もっと地域の中で取り組めることがあるのではないかと。そのためには、ウィンウィンの関係の構築というのが必要であるということですね。

例えば、中学生であれば、料理の上達があるし、城南の学生にとっては教えることで自分たちの技術や知識が養われるということですね。そういう地域の資源を活かした、地域の利益って何だろうということは、もう少し調べてみたほうがいいのではないかとということですね。企業や商店街、団体が、何を望んでいるのか、何を求めているのかということころは、調べていく必要があるのではないかとということですね。

それと、周知の方法ですね、何をされているのだということ、ただ単に言葉だけで発信するのではなくて、もっと中身を物語として見せていけるようなやり方を考えていったほうがいいのではないかとということをお話し合われていたようです。

では、これに対して、意見であったり感想、あと質問、ございましたらお願いします。

○翠委員

子育ての中で、先ほどから出ている、地域資源を活かすということとか、ウィンウィンの関係というところで、具体的にどういうふうに活かすのかとか、どういうふうにウィンウィンになるのかということまではまだですけども、一つ、考え方として、子育てというのは、このウィンウィンの考えから言うと、子育てによって、例えば親子の関係だったら、子育て、一方通行じゃなくて、子育てすることによって親も学ぶんだと。一緒に成長していくということ言えば、親子学びなのですね。子育てじゃなくて、親子学びの場という考え方を、この地域資源を活かすということに持ってくると、また、その地域全体が、地域の子どもたちを育てることによって、みんなが育っていくのだと。地域が学んで育つという考え方をみんなが持てるように、情報の発信の仕方であるとか、紹介の仕方

であるとか、そういうところを持っていくように、みんなが心がけていったらどうかという、一つの考え方として思いました。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。

今の翠委員の御意見について、何かありますか。

○中津委員

今、言った部分が、お店とかでもやっぱりあるのかなと思いました。今までしこライターさんが取材に行ってくれて、いろんな話を、こういう店はこういうことで、子育て層に対してアピールしているよというのを、伝えてくれているんですね。

そうすることによって、いろんなことを学んでいって、じゃあ、自分のお店はこんなことが子育て層向けに対して提供できるよという形で、新しい顧客層開拓とか、そういうところでも、一つ学びみたいなのはあるのかなと思うのです。今は何か、そういうのがまだすごく浅いというか、まだ知れわたっていなかったりもするのですが、親御さんも、子どもと一緒にどこか連れていくことによって、自分自身が成長したりとか、何か子どもが輝き、大人が輝くというところは、本当にそういうことかなと。

企業は企業なりの学び、自分のお店だったらこういうことができるのだとか、和菓子屋さんとかが、子ども向けの商品として出すなんて、考えたこともなかったみたいな、ということも出てきたりしているので、そういう部分の学びもあるのかなとは思います。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。

ほか、何か御意見ありますでしょうか。

今、出てきたキーワードとしては、地域が育つという言葉と思うのですが、地域コミュニティと学校との連携をどうつくっていくかという中で、地域コミュニティがどう育つのかというところ、子どもとかかわることで育っていくということを、どう発信するかとか、みんながどう捉えるかというところですね。

そこが、今ポイントとして出てきているのですが、何か御意見。いいですか。

それでは、質問、御意見がそのぐらいということで、本会議の提案事項の確定と、本会議での取り組み項目の説明内容、また必要であれば、今後の調査の項目等について、再度全体で10分、15分ぐらいですかね、意見交換をしたいと思います。

先ほど、お話のできなかつた子育て応援ナビについても、本会議の提案に絞り込むかど

うかの検討も、この時間にさせていただければと思います。この時間についても、部会を一時休会とし、議事録もストップさせます。

私が、再開しますと発言してから、部会の一時休会が解け、再開する形になります。

それでは、今から部会を一時休会とします。

では、この場で、全体で、お話していこうと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、今から意見交換を始めますので、自由に御発言いただければと思います。よろしく願いします。

(休憩 20:29)

(再開 20:49)

○藤本佳孝部会長

それでは、今から部会を再開します。

今からの発言は議事録に残りますので、御留意ください。

委員の皆さんからいただいた御意見を整理しますと、一つに、事業を継続するための予算づけというのは、やっぱり必要ではないかということですね。その予算を何に使うかというところで、答えは出ていないのですが、専門職の配置というか、継続するために必要な方を配置していただく。また、ホームページなどで取り組みの発信、もっと見える化していける仕組みを作っていく、そんなことができるのではないかという御意見が出ました。

それから、元気アップ事業と地域のかかわり方、城南短大の取り組みの例を一つ挙げて、もっとほかの企業などにも関わっていただく仕組みが、作れるのではないか。あと、元気アップ事業としても、そういうかかわりができれば、非常にありがたいのではないかと御意見が出ました。

これらの意見については、本会議で、こんな意見が出ましたということを報告いたします。取りまとめは、部会長を中心に行うこととなっておりますが、皆様の御協力をお願いすることもあるかと思いますので、よろしく願いいたします。

あと、調査とか、もう少しこういうヒアリング等をやったほうが良いのではないかと御意見も、中には出てくるかなと思っております。

例えば、先ほど、地域コーディネーターの方のお話、中野中学と白鷺中学しか聞けていないので、全体的にどんな取り組みになっているかが見えてないですね、ということであったり、あと、資料にも書かせていただいているのですが、今のところ、生徒側の御意見というのが、全然反映されていない状態です。生徒とのヒアリングというのができてな

い状態で、本当に生徒が何を望んでいるかというところは、聞いてみたほうがいいのかなというところも感じております。

あと、先ほど出た御意見としては、地域からの意見ですよね。企業や団体が何を望んでいるのか、元気アップ事業と関わることで、どのようなメリットがあるのか、その辺ももう少し聞いていったほうがいいのではないかと御意見も出ていましたので、これについても、もう少し精査して、御協力願うこともあるかもしれませんので、よろしく願いいたします。

それでは、今回はこのあたりで会議を終了いたしますが、次回会議の日程調整について、事務局からお願いいたします。

○齋藤政策推進課長

今日は、ありがとうございます。

今後のスケジュールですけども机の上に日程調整のペーパーをお配りしておきましたけれども、今日いただけるようであればお預かりさせていただきたいと思っておりますが、一応、予定としましては、11月の初旬に運営方針の素案の公表がございますので、できましたらそれまでに本会議を開催させていただきたいと思っております。先ほど、調べたいことがあるかなということですけども、どこまで我々としてもセッティングできるかなというのは思いますが、できるだけのことをさせていただいて、その時点の御意見をとりまとめて、提案いただけたらと考えております。

また、部会長に、私どもからも資料提供させていただきまして、取りまとめのサポートをさせていただこうと思っておりますので、皆さん、御協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは、以上です。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございました。

皆さん、御協力お願ひします。

それでは、最後に、区長より一言お願ひいたします。

上田区長

今夜も、皆さん大変お忙しい中、夜遅くまで御参加いただき、ありがとうございました。

元気アップの話が、議題になっていたのですが、資料を見ますと、平成21年度からスタートしたということで、今年度で丸10年という、いわば一つの節目になる年かなとい

う気もいたします。

10年間、地域の方々によって進めていただいたおかげで、課題も多分に見えてきた、学校間の差も見えてきたということだと思います。そういった意味では、議論の中でもありましたように、次に発展させていくがために、どういうことをやっていけばいいのか、それが仕組みであり、予算であり、それから周知であり、あるいは地域のコンセンサスをどう取るかということだと思いますので、それにつきましては、先ほど部会長からございましたように、取りまとめをお願いして、本会議に向けて進めていただければ、非常にありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

今日は、本当に遅くまでありがとうございました。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございました。

それでは、第2回部会を終了させていただきます。

お忙しいところ、ありがとうございました。

—了—